

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500031		
法人名	社会福祉法人 寿水会		
事業所名	グループホーム千鳥苑		
所在地	岩手県花巻市石鳥谷町大瀬川8-1-1		
自己評価作成日	平成26年11月14日	評価結果市町村受理日	平成27年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosvoCd=0390500031-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内		
訪問調査日	平成27年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑(施設)は、春には萌える新緑、夏には蝉しぐれ、秋には錦繡の紅葉など四季の移ろいを存分に体感できる葛丸川溪流沿いにあり、四季の移り変わりが実感できます。大自然の環境の中、「温泉」利用を特徴としております。利用者様には、散歩の際、行き交う地域の方々や挨拶を交わし、交流しながら時には、花や野菜を頂いたり、ゆったりとした日々を過ごしています。また、家庭的な雰囲気の中で利用者様と触れ合い交流しながら、昔ながらの習慣の行事や行事食を取り入れております。地域の方々やボランティアの方々に支えられながら、明るく笑顔で過ごされております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム千鳥苑」は、社会福祉法人が経営しており、改築後約6年経過している。周囲は、農村地域で、葛丸川溪流沿いにあり、自然環境に恵まれている。ケアハウスが隣接しており、行事実施や避難訓練等で良く連携が取られている。事業所の理念を職員がしっかりと共有し、利用者へ寄り添った和やかなケアが実践されている。民家とは少し離れているが、日常の散歩や四季の行事に参加するなど、地域と積極的に交流している。事業所としても外部の会合等に参加し、情報交換や意見交換を行い、地域との交流を拡大するとともに、運営推進会議の改善等に反映しようとしている。今後一層、職員研修を充実し資質の向上を図り、サービスのレベルアップにより今後が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でゆったり憩う家」の理念を掲げ掲示し、職員間では朝唱え、内容を吟味し確認し合っております。家庭的な雰囲気の中、ゆったりと憩え、温泉につかりながら和んで頂けるような雰囲気作りにも努めております。	地域に密着した事業所として、ふさわしい理念を定め、玄関に掲示し、毎朝職員が唱和して原点に立ち返り、その共有に努めている。職員は、日常のサービスを実践するにあたり、家庭的な雰囲気の中で、利用者が和やかに過ごせるよう、言葉遣いなどの関わりの面などに配慮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来るだけ地域行事に参加するように努めております。出席すると声を掛けられる機会が増えております。野菜や花をいただくこともあります。	運動会や敬老会などの地域行事には、できるだけ参加している。地域広報の提供を受けるとともに、事業所の広報を地域に廻すなど、地域との交流に努力している。	地域の一員として日常的な交流に努力しているが、今後はさらに、認知症の理解に関することなど、事業所の持つノウハウを地域に還元するなど、相互の交流拡大を図ることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通して地域との交流が向上しつつあります。職員は認知症の理解を深めるため各種研修に参加し研鑽を積んでおります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通し、利用者の状態、変化を説明し認知症ケアへの理解が得られるように努めております。色々な意見を頂だし、地域の方々との理解と協力を得ながら共に支え支えられながら、育っていく施設を目指しているところです。	地域との連携を確保・発展させるため、地域代表の委員の参加を得て、災害対策等について意見交換し、運営の参考としている。会議だけでなく、外部にも出かけて交流しようとする意欲が窺える。	運営推進会議の議題等が、形式や定例に陥ってしまいがちなことを補う意味でも、外部における会合等に積極的に参加しようとしており、そのような機会を通じて推進会議がさらに充実することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の方に生活保護受給者の相談やグループホームの運営について相談することも協力いただいております。	介護保険課等、市の職員とは日常的に連絡を取り合い、運営についての助言や介護保険、生活保護等の指導、協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内で宣言を掲示し、身体拘束となる行為の資料を回覧し、各利用者のケアの振り返りや見直しを行い、職員間で意見交換を行っております。	利用者を尊重したケアの実践について、事業所内に宣言を掲示すると共に、必要の都度、身体拘束のケース資料などを回覧し、拘束のないサービス実践に努力している。夜間には、防犯上施錠を行うが、日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は高齢者虐待防止関連法について理解しています。研修を受けた職員は全員に回覧し研修内容を周知するようにしています。入所者への言葉掛けも注意し合っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修の中に権利擁護に関して学ぶ機会がありますが、現在の入所者に必要性を感じていない状況です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に担当職員(介護職員・看護師)と介護支援専門員と複数で面接を行い、ご家族やご本人に説明した後、疑問点やお尋ねしたい事をお聞きし納得した上での契約となっております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情申出窓口の説明を行っております。ご家族の来苑時や電話連絡、サービス計画書の説明時を利用しながらご家族の意見や要望をお尋ねする機会を設け、出された意見等は、反映するように努めております。	家族の意見・要望は、来訪時や電話等で随時、受け入れている。冬季の冷え込み予防のため、窓ガラスにビニールシートを貼ることなどの提案があり、可能なものは実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開いています。その場で職員の意見や要望を聞き、話し合って業務等の改善や運営の参考にしております。	毎月の職員会議だけでなく、毎朝ミーティングを行う中で、職員の意見・提言を聞いている。事業所内設備の改善や外部研修の要望等が多いが、計画的に取り組もうとしている。	職員の意見は、よく聴取されているが、特に職員の資質向上は大切な課題なので、事業所内の事情を踏まえながらも、外部研修等の意向把握や実施に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり職員が向上心を持って働けるよう意見を聞き助言しています。給与は規程による。労働時間は規程の範囲内で希望も聞いております。働きやすい環境になるよう意見を取り入れ整えるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は他施設で研修を受ける機会を持っています。他の職員は、資格や働いた年数に応じた研修をうけています。研修内容は全職員に周知するようにしております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は岩手県グループホーム協会定例会に参加して、他施設職員と交流を図っています。研修者を受け入れ情報を交換しサービスの向上にも努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接で一般状態を把握し、本人の希望や家族の要望を叶えるよう努めております。コミュニケーションをとりながら利用者に受け入れられるよう努力しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接で聞き取りし「私の気持ちシート」を作成している。家族等が困っている事を理解し、生活面を見ながらどのようなサービスが適格か考慮し、施設としてはどのような対応ができるか家族とも話し合っております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にご本人の思いやご家族の考え・意向・要望をお尋ねし、ケアの方針を決めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の場をリビング(ホール)とし、皆が揃って手伝いをしたり会話をしたりしております。和むような話題作りしながら信頼関係の構築に努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にできるだけ多くの方が来苑して頂けるように促しております。「共に支える」を念頭に連携を図っております。。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人が面会に来られた時は、居室でゆったりとお話しをさせて頂いております。来苑された時は、利用者が、大変満足した様子で有り、ご家族にも報告し、続けて頂いております。馴染みの美容室にも継続利用されるよう支援しております。	友人や知人の来訪はどうしても途切れがちになるが、利用者にとっては楽しいことなので、できるだけ馴染みの人や商店、美容室等との関係が継続するよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の希望など尊重しながら他の利用者とのリビング(ホール)で過ごせるよう支援に努めております。職員は、お互い良好な関係がたもてるよう援助に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されても困り毎がありましたら、いつでもご連絡下さるようお伝えしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とゆっくり話し合える夜勤・入浴・昼食時等を利用し、思いや意向をお尋ねするよう努めております。一日3回の申し送り時や生活日誌を利用して全ての職員が情報を共有し、ケアカンファレンスでは、議題に取り上げ検討しております。	日常のケアを通じて、思いや意向の把握に努めている。健康でいたいこと、笑いながら過ごしたいことなどの意向が多いとのことであるが、利用者個々人の目標を定め、ケアに活かしていることは特筆される。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に「私の気持ちシート」やご本人やご家族のお話から把握できていない事を面会時の会話などから広く情報を得るようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「生活日誌」に一日の経過を細やかに記録し、変化を見逃さないように注意しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人と家族にケアについて説明した上で、ご希望・要望をお伺いし、ケアプランに役立てております。看護師、介護職員間で出された意見を反映し、計画作成の見直しに役立てております。	介護計画は、本人・家族や職員間で話し合い、利用者の現状に即して作成している。モニタリングは3ヶ月に1回行っているが、状況の変化に対応して、ケア関係項目を追加、削除等している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の毎日の生活を日誌に記録し、一日に朝～夕までに3回の申し送りをを行い、情報を共有してから業務にあたっております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診はご家族にお願いしておりますが、都合が悪い時は職員が同行しております。ご家族の要望でレイスさんによる全身マッサージ等実施している方もおります。入所者の不足品がある時はご家族の了解の上購入しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の敬老会、運営会にも参加させていただいております。地域の方々からのお誘いの声も聞かれ、お誘いに参加できるように健康に留意しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続されている方や苑で通院介助を希望される方もおりますが、家族の同意を得て通院先を決定しております。通院時には、バイタル記録、行動記録を提供し診療の参考にして頂いております。	家族との通院と、事業所職員との通院が半々の割合であり、入居以前からのかかりつけ医への受診を継続するようにしている。協力医との連携も保たれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の毎日の健康チェックを怠らず、変化時は看護師に相談し指示を仰いでおります。看護師とは、24時間連絡が取れる体制を整えております。必要に応じて受診し、ご家族への連絡も必ず行うようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、入院先への情報提供と入院後の医療相談室の方や家族を通じて相談や調整を行っております。普段からの利用者の通院同行を通して医療面の相談も実施しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一度ターミナルを経験しておりますが、協力医との連携、看護職員の勤務体制の問題もあり、基本的に病院を紹介することとしており、利用者・家族に説明し理解を得ております。	重度化や終末期に向けた取り組みは、避けて通れない課題と受け止めているが、体制上の課題などがあり、基本的には病院を紹介する方針で家族の了解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防署立会いの避難訓練で、人工呼吸訓練、AEDの使い方など心肺蘇生法を習得し方が一に備えております。職員間で骨折時を想定しての勉強会も実施しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、火災を想定し、通常の職員体制で行えるよう計画立案しております。訓練の際には、地域防災協力員や近隣の住民の方にも協力いただいております。今回は、夜間時の訓練も想定しております。	山間部にあるため災害対策を重視し、隣接のケアハウスと共同で火災の避難訓練を実施しており、消防署や地域防災協力員等との連携や協力体制も出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	着衣失行時には、自室にて声を掛け交換していただき、自尊心を傷つけないようにしております。利用者への声掛けや談笑時の言葉づかいについても丁寧な話されるよう職員間で注意し合い声掛けし合うように努めております。	事業所の基本理念をもとに、一人ひとりの人格やプライバシーを尊重しながら、日常のケアに努めている。声掛け、言葉遣いについても丁寧な対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の目線に立って声掛けをし、その人に合ったケアの提供に努め無理強いないよう、本人の意に添ったケアに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とおやつ以外は自分の好きな場所で生活していただいております。自室でテレビを見られる方もおりますし、ホールで過ごす利用者もおります。行事やレクレーションへの参加はご自身の判断にまかせております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候や気温に合わせて職員と一緒に服を選ぶこともあります。重ね着や着衣失行をさり気なく直していただいております。理髪をボランティアさんをお願いしておりますが、髪の長さ等もお尋ねしながら行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きと「いただきます」の挨拶、茶碗拭き、下膳等それぞれ役割を持って行っております。食材には、行事食、季節の旬を取り入れ、食事中は、皆さんとゆったりとお話ししながらの食事時間としております。	食事を楽しむことができるように食前食後の挨拶をはじめ、和やかな雰囲気づくりに努めている。行事食や季節の食材を提供するなど、食事に変化をつけている。調理の下ごしらえ、テーブル拭き、食器拭き等できる方には声かけをしてやって頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた食事の提供しております。義歯のない方、自歯欠損の方に刻み食、ミキサー食を提供しております。水分補給は見守りを行い、不足している時は飲みやすい物に替えて提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で出来る方には声掛けを行い、できない人には介助を行っております。義歯洗浄も就寝前に必ず行っております。歯科検診に職員同行し、治療に結びつけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、利用者の行動パターン、個々の排泄リズム、表情をくみ取る事でトイレでの排泄回数も増え、オムツ使用減にもつながっております。	オムツは使用しているが、日中はトイレ排泄を基本とし、利用者のパターンを把握しながらトイレ誘導して支援しており、オムツ使用も減少している。排泄のリズムを把握するようにし、それとない誘導により、失敗による羞恥心の排除に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロール表に基づき排便管理した、繊維質の多く含む食品も考慮し便秘対策を行っております。個別に水分補給にも取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、その日の体調や気持ち、意向に柔軟に対応し、温泉の効能をお話し、コミュニケーションを図りながら勤めております。	火・水・金・土曜日のうち、2回の入浴を基本としており、希望に応じ、日時を変更している。利用者は、温泉を好む方が多いが、中には入浴嫌いの方もいる。それぞれ、見守りまたは介助により対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせて無理強いない入床介助に努め、就寝の際は、更衣介助を実施し安心して休めるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一覧表に薬も記載しており職員は全員、内容を把握できています。服薬の確認は複数の職員で行い、誤りのないよう努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを通じて、個々に役割を持って頂いております(家事等の分担等)。行事への参加や好きな歌を皆で歌い、リフレッシュを図っております。。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の意向をお聞きしながら外出支援を行っております。四季の変化を感じて頂くと共にリフレッシュの機会でもありますし、筋力低下防止の為に外出し、散歩に出掛けるように努めております。隣接するケアハウスにも出掛け、一緒に行事も楽しまれております。地域住民の方々からご協力を頂きながら、外出の範囲を広げて行こうと思っております。	自然環境に恵まれていることもあり、できるだけ散歩等の外出を支援するようにしている。花壇を作るなど近所の人々も協力的である。地域行事にも参加し、楽しんでいる。車イスの方が多く、すべて対応するようにしている。事業所行事として、花見や紅葉狩り等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いの所持は認めておりませんので物品が不足した時は、ご家族に連絡して補充していただくか、立て替えて購入する事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りが困難になっている方が多く、ご本人様の希望時には、電話の取次ぎ支援を行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活導線の環境整備に努めると共に廊下、食堂兼ロビー、トイレ、行事用広場のスペースは広く、天窓からは、明るい陽射しが入るようになっております。食堂兼ロビー、玄関には頂いた花を飾り、その続きの和室には炬燵とテレビを備えております。	以前の温泉施設を改築した事業所であるが、食堂をはじめ、ホーム全体が広く、和やかな雰囲気である。トイレや風呂の設備も整っている。室温、照明とも適度で、快適な生活空間を醸し出している。廊下には自分たちで制作した作品を掲示し、我が家という状況を作り出している。加湿器を廊下等に設置し、インフルエンザ対策をとっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活を送っていても利用者本人が居心地が良く、ほっとできる空間を提供できるよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人そしてご家族と相談しながら、愛用されていたくつろぎの椅子やテーブル、座卓、タンス、テレビ、日記等を持ち込むなどして居心地良く過ごして頂いております。	居室は清潔さが保たれており、また、好みの用具が使用されている。タンス、テレビ、いす、テーブル、思い出の作品、写真等を置き、落ち着いた生活ができるようなスペースになっている。壁には思い出の写真が貼られるなど、居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内は、自力歩行ができるよう廊下等に手摺り設置整備しております。玄関には、手摺りとスロープを設置し、トイレ・入浴室には、I型・L型・横手摺りを設置し事故防止に努めております。		